

## ESCAP/WMO 台風委員会セミナーで講演を行いました（2015/03/16）

テーマ：台風、災害リスク軽減、台風委員会の今後の役割  
場所：仙台市民会館 第7会議室

2015年3月16日（月）、仙台市民会館第7会議室において、「ESCAP/WMO 台風委員会セミナー(UNESCAP/WMO Typhoon Committee)」が開催され、当研究所の小野裕一教授（情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス）が講演を行いました。

台風委員会は、アジア太平洋地域における台風被害の軽減を図るため、国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)および世界気象機関(WMO)が共同で設立した多国間地域協力の枠組みです。2005年には委員会内に「防災・減災ワーキンググループ(WGDRR)」が設立され、アジア太平洋地域の台風被害を軽減する上で中心的な役割を果たしてきました。

本セミナーは、WGDRRが過去10年間で得た成果を振り返ると共に、防災・減災を目指した新たな枠組みにおける台風委員会の今後の役割や課題について議論することを目的として開催され、約20名の参加者がありました。はじめに台風委員会、ESCAP、WMO各機関の代表からご挨拶をいただき、その後4名の講演が行われました。台風被害を減らす上での委員会の役割および新たな防災・減災を目指す枠組みについて小野教授が講演を行ったほか、WGDRRにおける過去10年間の調査研究成果、フィリピンの台風被害から得た教訓、今後の課題などについての講演も行われ、発表後の質疑では情報の交換・共有がなされました。最後に各機関の代表者によるパネルディスカッションが行われ、第3回国連防災会議後に策定される新たな防災・減災を目指す枠組みの中での委員会の方向性について活発な議論が行われ、情報の交換・共有がなされました。2時間という短い時間でしたが有意義な意見交換が行われ、委員会のこれまでの取り組みや今後の課題を多くの参加者と共有することができました。



セミナーの様子



小野教授の講演の様子